



サロン通信 第7号

令和5年12月1日 発行
大野南地区社会福祉協議会
いきいきサロン推進委員会



いきいきサロンのこれまでとこれから

地域福祉の更なる発展と充実のために、2014年予算化されて地域福祉推進委員会が発足しました。当時の市社協の臼井職員と委員会のメンバーで丁寧に議論を重ね、キーワード①相互扶助②セーフティーネット③ふれあい・生きがい④自分の能力の発揮⑤誰もが暮らしやすい、が出てきました。福祉資源を、ハード面とソフト面に分け描き出してみると、福祉の拠点の空白地域が見えてきました。まずは、歩いて行ける範囲の地域に「福祉の小舟」を浮かべよう、気軽に相談や悩みが言える場所を作ろうと考えました。



(みんなで歌います)

そして、現在の「いきいきサロン」の姿があります。支えてくださる皆さんとそこに通ってきてくださる皆さんが作りあげる「福祉」です。中身を充実させるのも皆さんです。地域のお困りごとを発信して、地区社会福祉協議会や包括支援センターにつなげていただくと、その解決のための制度が検討される道が生まれます。一人の、我が家だけの困りごとと思わず、まずは気楽に口に出してみる事、



(サロンで体操の時間)

「こうだったら」、「こうなればいいな」もサロンの中で話してみませんか？
いろいろな意見が集まってくるのを楽しみにしています。



いきいきサロン推進委員会
委員長 中村 洋子



令和5年度相模原市社会福祉協議会顕彰に3つのサロンが表彰されました



* プラザンティふれあいサロン * 旭ふれあい会 * 御園みゆき台ふれあいサロン

この表彰は、社会福祉の進展に大きく寄与(ボランティア活動として活動が5年以上でその功績が大きいもの)した個人または団体が対象となります。大野南地区社会福祉協議会として今年度はサロン活動期間が長い上記3つのサロンを推薦し、受賞が決まり10月28日(土)にあじさい会館にて表彰式が行われました。これからも頑張ってくださいと思います。

いきいきサロン運営者懇談会と講演会を開催しました！(令和5年8月23日(水))



(懇談会の様子)

いつもと少し形を変えて、サロン代表者と運営者にも参加していただきました。時間の関係で全員の方からお話を聞くことはできませんでしたが、懇談会の雰囲気を知っていただけたのではないかと思います。全てのサロンが活動を再開しましたが、コロナ前とは同じ活動はできないのでそれぞれ活動内容を工夫している様子がわかりました。改めてサロン運営者のみなさんに感謝の気持ちでいっぱいになりました。ありがとうございます。



この日、第2部として相模原中央病院の感染症認定看護師の柴崎敦先生に講演をしていただきました。事前に各サロンから出た質問内容を織り込みながら話を進めていただきました。実際に医療現場で活躍されている柴崎先生から現在のコロナや医療現場の大変な状況についてお話がありました。コロナが5類になったからと言っても感染者数や感染状況は変わっていないことをよく理解していただき、みなさんがこれからもずっとサロンで楽しい時間をお友達と共有するために、感染予防(マスク・消毒)をする必要性やマスク着用の個人の判断などの声なき声に周りが気付く大切さについてもお話がありました。



(講師 柴崎 敦看護師)



サロングッズを揃えています



サロン活動が一層楽しくなるように、サロングッズを少しずつ揃えています。現在は「ターゲットプレイシート」の丸型と四角型。モルックを購入しました。また、県名当てクイズ、難読漢字クイズ(野菜・花)なども作成しました。すでいくつかのサロンで活用していただいています。参加者のみなさんに楽しんでいただけるように今後もクイズ等作成していこうと思います。お楽しみに！！



ターゲットプレイシート(丸型)



ターゲットプレイシート(四角型)



モルック



モルック講習会開催しました(令和5年10月16日(月))

「音楽と落語の宅配便」主宰の濱乃志隆氏を講師としてお招きし、サロン運営者を対象にモルック講習会を開催しました。まだ馴染みのない「モルック」ですが、フィンランド発祥の遊びです。白樺の木で作ったモルックという棒を投げて倒れたスキttlの得点を加算して50点ピッタリにするゲームです。志隆氏の話もそこそこに2チームに分かれてすぐにゲームが始まり、ルールや攻略法がわかってくとみなさんゲームに熱中し上手く得点できると大きな歓声やハイタッチをする様子が見られました。現在、いくつかのサロンで



(講師濱野志隆氏)



(ゲームに熱中するみなさん)

モルック体験をしていて「また来月もやりたいと言っているのでモルック貸し出し予約をお願いします。」となかなか盛況です。もう少しモルックがサロンで浸透したら、「大野南地区サロン対抗 モルック大会」の開催が目標です。



「ほほえみネット」の輪を広げましょう

ミニほほえみだより



「ほほえみネット」は、超高齢社会が進み、高齢者世帯や一人暮らしの方が年々増える中、孤立や孤独にならないように地域の支え合いが必要と、さりげない見守り活動が始まり、ポスター掲示やチラシ回覧などをし、お一人お一人の気づきに託しています。

朝、お隣の雨戸が開く音で「今日もお元氣ネ。」と思うことも、回覧板を届ける時にひと声掛けることも、《いつもとちょっと様子が違う！》の気づきに繋がります。もし、不安や心配を感じた時でも直接お声掛けしにくい場合は民生委員児童委員、又は自治会長にお知らせいただくことで、早期対応で安否確認や相談窓口などに繋ぐことができます。

ご近所の優しさや思いやりのある町は、高齢になっても安心して暮らし続けられる町です。戸建て住宅の多い地域とマンションの多い地域などでは、見守りにも違いがあります。さりげない見守りを基本に、各地域で見守り、支え合い活動が独自に進化していくのも良いなと思います。推進委員会では、さらに見守りの輪を広げられるように、地域のかたが利用する商店やコンビニにも協力を依頼していきたいと検討しています。地域に見守りと支え合いの輪が広がるよう、これからもよろしくお願ひ致します。

ほほえみネット推進委員会
委員長 大野 喜久子

